

インテック

インテック エグゼクティブセミナー2012開催

8月24日～26日の3日間、「インテック エグゼクティブセミナー2012」を開催しました。本セミナーは、お客さまに日頃の感謝の意をお伝えするとともに、インテックと創業の地・富山をご理解いただき、お客さま相互の親交を深めていただくことを目的に開催しています。

初日は「業種商の館 金岡邸」にご案内して、富山の菓売りの歴史と「先用後利」の考え方に触れていただきました。その後、最新鋭のデータセンター「パワー・アンド・IT」を見学していただき、地震が比較的少ない富山の地形について、また防震構造と万全のセキュリティ設備についてご紹介しました。

2日目はインテック大山研修センターで、最高経営責任者の中尾哲雄から富山の歴史とインテックの歩み、常務取締役の石井貞行から「災害対策データセンター」を紹介しました。



富山市八尾町にて

基調講演では、「Campusノート」でおなじみのココヨS&T森川卓也社長から、「“国の誉”から“アジアの誉”へ～たかがノート、されどノート～」と題し、「それはちょうどいい!」をコンセプトにした商品企画のポイントとグローバル展開についてお話しいただきました。続いてJT生命誌研究館の中村桂子館長から、「生きものつながりから考える社会づくり」と題して、ヒトは思いやりやつながりを持てる生物であり、利便性の追求や科学技術の発展の陰で何か失っているのではないかと「気づき」を与える講演をしていただきました。

セミナーの後、参加者は全国的にも有名な「越中八尾おわら風の盆」の前夜祭を訪れ、八尾の情緒ある町並みと胡弓の音色に乗せた風情豊かなおわらの踊りを堪能されました。



大山研修センターにて

インテック

中華民国工商協進會60周年記念式典で挨拶

9月24日、25日に開かれた台湾の「中華民国工商協進會」(日本の経団連にあたる)の創立60周年記念式典、諸行事にインテック最高経営責任者の中尾哲雄が招かれました。中尾はこの会の顧問を務めており、式典では大前研一氏とともに記念品が贈呈されました。

晩餐会で中尾は、「領土問題もあるが、日本と台湾の長い友好関係は揺るぎないものであり、今後も経済ばかりでなく友好的関係を保っていかう」と挨拶しました。



中華民国工商協進會理事長 駱錦明氏と中尾(右)

インテック

国内3地域のデータセンターを接続、国内初の広域仮想クラウドサービス

EINS WAVE稼働

インテックは、6月に実用サービスとしては国内初となる企業向け高可用型広域仮想クラウドサービス「EINS WAVE /アインス ウェーブ」の提供を開始しました。

「EINS WAVE」では、首都圏、北陸、関西の3地域にある高機能データセンターを高速仮想LANで接続した「広域仮想データセンター」上で、仮想サーバ基盤やデータバックアップサービスの「IaaS」とともに、電子証明書発行やID統合認証、モバイルデバイス管理などを提供する「PaaS」の利用が可能になりました。さらに、これらの拠点を独自開発の完全二重化した運用インベーションシステムで統合的に運用管理することにより、万一の災害時でも停止しないクラウドサービスを提供いたします。

※1 Extended Infrastructure Service - Wide Area Virtual cloud Environment
 ※2 Infrastructure as a Service
 ※3 Platform as a Service

EINS WAVEの概要

SaaS	オペレーションを二重化した運用インベーションシステム	インテック SaaSソリューション EINS/EDI/Hub Nex I-TRe Call/ノート/Call/クレヨン	お客さまシステム
PaaS		統合認証サービス 電子証明書発行	EINS/IAM EINS/PKI*
IaaS		データ・バックアップ 仮想サーバ基盤	EINS/BRS EINS/SPS
仮想データセンター		DC間広域仮想LAN 高機能データセンター	VDCネットワーク 首都圏/北陸/関西

「EINS WAVE」は、以下の利用目的に合わせ、地域や機能が選択できます。

- ・システムの分散配置による高可用型プライベート・クラウド
- ・遠隔バックアップ・リカバリによるDR(災害対策)環境
- ・社外からの安全なアクセスを実現するモバイル専用クラウド
- ・複数のクラウドを統合したハイブリッド・クラウド

これにより、高機能で安全なクラウド環境を構築することが可能になります。そして、可用性の高いIT基盤としてお客さまの事業継続性の確保に大きく貢献します。

「EINS WAVE」では、従来の仮想サーバ基盤や電子証明書発行などのサービスに加えて、以下の2つのサービスを新たに提供しています。

1) データの遠隔バックアップ・リカバリを実現する

EINS/BRS(アインス ビーアールエス)

「EINS/BRS」は、首都圏と北陸の高機能データセンターに設置したバックアップ専用ストレージにお客さまのデータをお預かりするバックアップサービスです。インテックのデータセンターをご利用のお客さまは、同一センター内のバックアップ、もしくは他のデータセンターへの遠隔バックアップのいずれもご利用になれます。また、お客さまの社内のシステムのバックアップも、インテックのデータセンターへ接続してお預かりいたします。

2) 安全・簡単・便利にSaaSやモバイル利用をサポートする統合認証サービス

EINS/IAM(アインス アイイーエム)

「EINS/IAM」は社外クラウドサービス(SaaS)と自社システムのユーザーID情報の統合管理や、クライアント証明書によるアクセス認証、複数のサービス間のシングルサインオンなどの機能を提供します。SaaSやスマートフォン等モバイルデバイスなど社外環境を利用する時のセキュリティ強化、システム管理者の運用負荷軽減、コストの削減、利用者の利便性向上を実現します。



インテック、ネクスウェイ

「ASP・SaaS・クラウドアワード2012」を受賞

インテックとネクスウェイは6月20日、特定非営利活動法人ASP・SaaS・クラウドコンソーシアム(略称:ASPIC)が主催する「第6回ASP・SaaS・クラウドアワード2012」にて「先進技術賞」および「ASPIC会長特別賞」を受賞しました。

ASPICは、1999年に設立された団体で、総務省と合同でASP・SaaS・クラウドの普及やデータセンターの利用推進などの活動を行っています。今回の「第6回ASP・SaaS・クラウドアワード2012」は、112サービスの応募のなかから有識者による委員会にて評価選定されました。

「先進技術賞」を受賞したのは、インテックとTISの共同事業「Callクレヨン」です。Callクレヨンは、Webと電話を連動させたO2Oサービス[※]で、利用者と店舗などを結び付けることで新たなマーケティング情報の収集、お客さまサービスの向上を可能にしています。

お問い合わせ先 Callクレヨンについて/株式会社インテック ネットワークソリューション部 TEL:045-451-7473 FNX e-帳票FAXサービスについて/株式会社ネクスウェイ TEL:0120-341890

また、ネクスウェイの「FNX e-帳票FAXサービス」が、「ASPIC会長特別賞」を受賞しました。FNX e-帳票FAXサービスは、発注書や納品書といった各種帳票を自社のFAXを利用することなく、ネクスウェイにデータ転送することによりFAX送信するサービスです。

※O2Oサービス: Online to Offline Service
オンライン(Web)とオフライン(リアル)とを連携・融合したサービス



Callクレヨンの受賞メンバー

ネクスウェイの受賞メンバー

インテック

バイオの国際会議「BioHackathon 2012」 インテック大山研修センターで開催

科学技術振興機構バイオサイエンスデータベースセンターと情報・システム研究機構ライフサイエンス統合データベースセンターによる研究イベント「BioHackathon(バイオハッカソン)2012」が、9月3日～9月7日にインテック大山研修センターで開催され、インテックから先端技術研究所の藤原豊史研究員が参加しました。同研究所では遺伝子研究など生命科学分野のシステム開発や研究支援を行っています。

BioHackathonは2008年から毎年開かれている国際的な開発者会議です。今年は「セマンティックWEB技術をベースとした生命科学分野のアプリケーション開発」をテーマとし、国内外から約80名の研究者・開発者が参加しました。Hackathonとは、「Hack(ハック/高い技術力でシステムを操る)」と「Marathon(マラソン)」を組み合わせた言葉で、ある分野の研究者や開発者が集まり長時間にわたってプログラム



大山研修センター 図書コーナー

開発や討論をするイベントのことをいいます。大勢が一緒に活動することで飛躍的に研究や開発が進むことから、さまざまな分野で開かれるようになりました。

BioHackathon 2012では、研修室や図書コーナーを利用して朝早くから夜遅くまで多くの議論・開発が行われ、また、バーベキューや談話室での交流会も実施されました。討議記録や研究レポートなど今回生み出された多くの成果は、<https://github.com/dbcls/bh12/wiki>で参照することができます。

※BioHackathonの詳細は<http://2012.biohackathon.org/>を参照

インテック

スマートシティシンポジウムでICTの役割をパネル講演

7月23日、24日と東京・大岡山の東工大蔵前会館にて、「第1回日経スマートシティシンポジウム」が開催されました。24日には、「コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築」と題したパネルディスカッションが東洋大学の石井晴夫教授をコーディネーターに行われ、パネラーとして森雅志富山市長、新田八朗日本海ガス社長らとともに、インテック常務取締役の石井貞行が登壇しました。

富山市は、内閣府により環境未来都市に選定されており、森市長からは、「公共交通を軸としたコンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築」についての発表がありました。新田社長による「富山型セーフ&環境スマートモデル街区」での取り組みの説明に続いて、インテックの石井は、スマートシティにおけるICTの役割およびスマートフォンを使った取り組みを紹介しました。ディスカッションで

は、富山の地域特性をふまえた具体的な施策や官民学連携による推進などについて意見交換が行われ、インテックの石井は、「スマートシティの実現を支えるために、ICTは情報プラットフォーム上で多種多様な情報を集約する。その情報を連携することで新しいサービスや産業が産み出される」と主張しました。

同シンポジウムでは、富山市以外にも環境未来都市に選定された、横浜市、北九州市、柏市などの首長、政策担当者が発表を行い、日本におけるスマートシティ実現に向けた進捗状況を総覧することができました。

日本の競争力強化のためにインテックは、さまざまなパートナーとともにスマートシティ実現に取り組んでまいります。



インテック

高感度アスベスト計測技術を共同開発

インテックはJST研究成果展開事業 先端計測分析技術・機器開発プログラムの一環として、広島大学、有限会社シリコンバイオと共同で、誰でも簡単に大気中のアスベストを測定できる技術を開発しました。

アスベストは発がん性物質として知られており、2006年に法律で使用が全面禁止されています。しかし、国内に現存するアスベスト建材の総量は4,000万トンに上るともいわれ、古い建物の解体現場などでは、作業者の安全と周辺環境に考慮して行う必要があるため、アスベストの飛散の有無を現場で簡便に計測する技術が求められています。

従来のアスベスト検出法では、大気に含まれる塵などをフィルターで採取し、前処理を行って位相差顕微鏡で観察していたため、精度が低く、そのうえ数日から1週間程度の時間がかかっていました。

広島大学とシリコンバイオ社では、特殊な蛍光たんぱく質を利用してアスベストのみを蛍光顕微鏡で簡便かつ高

感度にとらえるバイオ蛍光法(図1)を開発しました。この開発

チームにインテックが加わり、熟練の計測者でなくともルールに従いアスベストを自動で計測できるソフトウェア(図2)を開発

しました。バイオ蛍光法によるアスベスト検出キットと自動計測ソフトウェアを組み合わせることで、採取した大気試料から1時間程度で、誰でもアスベストの検出と判定を行うことが可能になりました。

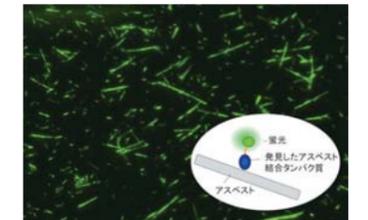


図1 世界初、アスベストの蛍光イメージング



図2 アスベスト自動計測ソフトウェア操作画面

お問い合わせ先: 先端技術研究所 研究開発部 TEL:03-5665-5011 e-mail:info-ati@intec.co.jp

世界の技術者が集うGoogle I/Oに参加

6月27日から29日に、米国・サンフランシスコで開催されたGoogle I/O。世界中から技術者が集結したこのイベントに、インテックの松田俊寛研究員が参加しました。

Q Google I/Oとは?

Googleが主催する技術者向け年次カンファレンスです。新しい製品・サービスの発表や、それに関する技術の紹介・解説などが行われます。今年は世界中から約5,500人が参加し、新しいバージョンのAndroid端末をいち早く体験したり、Google Glass[※]のデモとして行われた会場上空からのスカイダイビングの中継に熱狂したりしました。技術者の注目度は高く、一般販売分のチケットが今年は約20分で完売してしまいました。

Q 参加するために苦労したとのことですね。

参加するには、Googleから招待されるか、一般販売でチケットを購入しなければなりません。私は一般販売では購入できず、セカンドチャンスとして開催されたプログラミングコンテストに挑戦しました。上位入賞者(100名)にチケットの購入権が与えられるもので、日本時間の23時から4時間、問題と格闘しましたが、結局は出題側の不備のため参加者全員(約300名)に購入権が与えられることになりました。

Q どのような成果がありましたか?

また、世界のIT技術者に接しての感想は?

先端技術研究所では、スマート端末関連技術(Android等)の研究開発に取り組んでいます。この分野での新しいサービス・技術に関する情報が収集でき、Googleの動向

参加者全員に渡される“お土産”もGoogle I/Oの大きな話題。最もインパクトが大きかったのはNexus Q(家庭用メディアサーバ)でした。写真1の黒い球体のような外見で、空港の荷物検査で「これは何ですか」と聞かれて答えるのに苦労しました。



先端技術研究所
松田 俊寛

についても把握できました。

一方、他の参加者と交流できたこともよい収穫です。Androidに関する日本人コミュニティの方々と開発のアイデアや情報収集の方法を話し合い、大いに触発されました。また、アプリ開発やサービス提供に携わりながら、ブログでの情報発信や勉強会などのコミュニティ活動に精力的に取り組んでいる参加者も多く、刺激になりました。私もAndroidのアプリ開発を行っていますが、積極的にコミュニティの輪に加わり、さらにレベルアップしていきたいと強く感じました。

※Google Glass
Googleが開発中のメガネ型のコンピュータ。レンズに情報が表示されたり、取り付けられた小型カメラで自分の視界を他人と共有したりできる。



写真2



写真1

インテック、北国インテックサービス、高志インテック

北陸3県でITフェア

インテックと北国インテックサービス、高志インテックは7月25日～27日の3日間「インテックITフェア」を開催しました。福井、石川、富山の3会場、製造、サービス業など幅広い業種のシステム管理者が参加し、経営に寄与するシステム構築、海外工場におけるシステム導入のポイントや、スマートフォンのビジネス活用、ITを通じたBCP(事業継続計画)



インテックITフェア 富山会場(タワー111)

などについて探りました。スマート端末向け認証ソリューションなど約20種のサービスの展示コーナーも熱心な参加者で賑わいました。

クラウド・スコープ・テクノロジーズ

東京証券取引所のネットワーク基盤にMPLS網監視システム「Hexa」採用

クラウド・スコープ・テクノロジーズのMPLS網監視システム「Hexa(ヘキサ)」が、東京証券取引所の超高速ネットワーク基盤「arrownet version2.0」に採用され、6月に運用支援サービスを開始しました。

東京証券取引所はグローバル市場のニーズに応えるため、より高速・堅牢で信頼性が高く、かつ拡張性に優れたネットワークの構築を推進しています。今回スタートした「arrownet version2.0」には大量のデータが高速で流れるため、堅牢な冗長構成を保持できるMPLS網が使われています。運用を強化するためには、無数に張り巡らされたデータパスの経路が変化した場合など即座に変化を把握することが重要になります。

「Hexa」はMPLS網を安定運用するために開発されたシステムで、データパスや予備回線の見える化、状態管理、発生イベントの監視、障害のリアルタイム検出、障害箇所の把握などを行います。「Hexa」の導入により、「arrownet

version2.0」のMPLS網やデータパスの『見える化』が実現し、運用者は経路情報を目視しながら確認・設定できるようになりました。また、利用者の増加、接続拠点数の拡大に対応する上で重要なIP-VPN^{※2}パスの『見える化』も迅速にできるようになり、安定運用と効率化に貢献しています。



東京証券取引所 arrownet version2.0のイメージ図

※1 MPLS (Multi-Protocol Label Switching):
ラベルスイッチング方式を用いたパケット転送技術。データ転送をより高速・大容量化することができる。

※2 IP-VPN (IP Virtual Private Network):
MPLSベースの閉域IP網を中心に、アクセス回線経由で接続するサービス。一般的に回線速度の保証やQoSなどSLA(サービス品質保証契約)を提供できる。

インタークラウド環境でOpenFlowとMPLSを同時に管理

OpenFlowに代表されるSoftware Defined Network (SDN)が新世代ネットワークの先端技術として注目されています。近い将来、OpenFlowとMPLSを組み合わせたインタークラウド型次世代ネットワークが広く普及すると考えられていますが、クラウド・スコープ・テクノロジーズでは、その運用効率化を重要な課題と考えています。

そこで、OpenFlowとMPLSを組み合わせた機能を持つ装置を利用してデータセンター間を接続し、マルチテナント^{※2}を想定したインタークラウド環境を疑似構築しました。この環境においても安定的にネットワーク監視ができるようになるため、MPLS網監視システム「Hexa」をもとにOpenFlowとMPLSを同時に管理できるシステムを開発し、実証実験を行いました。今後、実証実験の成果を検証し製品化に向けて準備を進めていきます。

※1 Software Defined Network:
ネットワーク構成の設定や変更などをソフトウェアによって行う仕組みのこと。従来は機器ベンダーごとにマニュアルで設定しなければならなかった。

※2 マルチテナント:
クラウドコンピューティングなどで、機器やソフトウェア、データベースなどを複数企業で共有すること。

注目集める OpenFlow

現在、IPネットワークはベンダーが開発した技術に依存せざるを得ない状況となっています。そこで、既存のサービスに影響を与えず新しい技術を開発するという発想のもと、スタンフォード大学を中心に開発されてきたのがソフトウェアによってネットワークの構成をする、新しいネットワーク制御技術「OpenFlow」です。OpenFlowでは、ネットワーク機器の基本機能である経路制御とデータ転送の機能を分離しています。分離した両機能をOpenFlowが指定するインターフェースで、ソフトウェアとしてつなぐことで通信を実現します。

OpenFlowを利用することで、ハードウェアの増設、変更をすることなしに、サービス形態に合わせて自由にかつ一元的にネットワークを管理できるようになります。

活用事例としてはクラウドサービスの環境構築があげられます。この場合、物理的な構成に依存せず、必要に応じてネットワーク機能を簡単に構築できるようになります。